



札幌学院大学コミュニティ・カレッジ 無料講座開催

今どきのヒグマ事情 ―ヒトとの距離感が変わってきた―

講師／山本牧（ヒグマの会副会長）

日時／10月8日（火）13：00-15：00、15：10-17：10

場所／札幌学院大学社会連携センター（定員／50名）

札幌圏の人々の憩いの場となっている野幌森林公園とその周辺住宅地へのヒグマの出没が続いています。また、札幌市南区ではヒグマが人を恐れる風もなく住宅地に進入し、菜園を荒す被害が生じ、被害をもたらしたヒグマが駆除されました。近年急増するヒグマによる様々な事態は何故起きるようになったのでしょうか。

札幌学院大学のコミュニティ・カレッジではこうした事態について市民の方々が理解するための機会を提供することと併せて、ヒグマとヒトとの共生のあり方を考えるために、標題の講座を無料で開講します。

講師の山本牧氏は、北海道大学在学中からヒグマ研究グループに所属し天塩演習林ほか知床半島、大雪山系、渡島半島などでの豊富な野外調査経験があり、大学卒業後は北海道新聞記者を経て現在はヒグマの会（※）の副会長を務めています。ヒグマに関する講演等を通じた啓発活動も行っています。

（※）「ヒグマの会」は、研究者や狩猟者、農家、行政そして一般市民らが集まり幅広い立場から「ヒトとヒグマ」の関わりを考え、調査や提言を行っている団体です。（会のホームページから）

講座概要

ヒグマとヒトとの距離感がこれまでになく変化してきています。緩衝帯の役目を果たしていた農山村の衰退や熟練狩猟者の減少などを背景に、生息数が回復し、人を怖れない個体が増えて、畑荒らしや市街地への接近が相次いでいます。野幌森林公園などへの出現は、「野生の再進出」傾向の延長線上にあります。講座ではヒグマの食性や行動、生活史など基本的な生態を解説し、その上で、現代のヒグマと人間社会に何が起きているのか、今後どんな対策が必要かを考えます。

	テーマ	内 容
1	原因編～人間社会の変化をヒグマは学習し順応している 13：00～15：00	ヒグマとはどんな生き物か1 草食に偏った食性や繁殖・冬眠などの生活史と雑食ゆへの高度な学習能力と柔軟性に富んだ行動について説明します。その上で、この30年でヒグマの行動が大きく変わったことについて説明します。何がヒグマの行動を変えたのかを考えてみます。
2	対策編～ヒグマの変化に人間はどう対処したらいいか 15：10～17：10	ヒグマとはどんな生き物か2 人間はヒグマにどう対処したらいいのでしょうか。地球レベルの進化史から考えてみたいと思います。併せて、今まさに直面している問題への対処の仕方、すなわち遭遇時の対応とヒグマ事故の分析・予防策、市街地への接近対策等について紹介します。

【講師紹介】 山本 牧（やまもと まき）

1955年福井県生まれ。北海道大学大学院農学研究科中退。専攻は森林動物学（ヒグマ）。1981年、北海道新聞入社。社会部次長、編集委員など。2009年退社し、NPO法人もりねっと北海道入り。活動テーマは「森と人をつなぐ」。現在代表。ヒグマの会副会長。著書に『知床からの出発』『ヒグマとつきあう』など。

講座の受講には事前のお申込（インターネット・FAX・ハガキ）が必要です。

詳しくは札幌学院大学コミュニティ・カレッジHP（<http://www.sgu.ac.jp/rcc/>）でご確認ください。

【取材のお申し込み】

〒069-8555 北海道江別市文京台11番地 札幌学院大学広報入試課広報係

代表 011-386-8111（内線3511）平日9:00～17:00 土曜9:00～12:00

URL <http://www.sgu.ac.jp/> E-Mail: kouhou@ims.sgu.ac.jp